

「父、大いなる父」

上島幸三 父

上島直人 息子

山田重道 上島家居候

幸三の自宅リビング。

幸三と直人が向かい合って座っている。

直人　それで父さん、話ってなんなの？急に実家に来いなんて、なんかあったの？

幸三　実はな、お前に紹介したい人がいるんだ。

直人　え？紹介したい人って……。

幸三　入ってください。

扉が開くと山田が立っている。

直人　え？

幸三　こちらはトンカチ教の大いなる父、教祖の山田さんだ。

山田　私が君の、大いなる父だよ。

直人　……。……。ちよつとすみません。ちよつと待ってて貰っていいですか？

山田　御意。

扉が閉まる。

直人　……。

幸三　直人、どうしたんだ？

直人　父さんがどうしたんだ？え？何あの人？

幸三　大いなる、父だ。

直人　ちよつと意味が判らないんだ、その説明では。

幸三　トンカチ教の大いなる父、つまりはまあ、勧誘だ。

直人　そうだろうね。

幸三　お前も残りの人生をトンカチ教に捧げてみないか？

直人　絶対嫌だよ。ていうか、え？なんでそんな宗教に入ってるんだよ。何、トンカチ教って？

幸三　興味出て来たか。

直人　悪い意味でね？普通絶対入らないだろって意味で興味があるよ。

幸三 いやいや、父さんもまだ入ったわけではないんだ。入られてるんだ。  
直人 ・・・・何を言ってるの？

幸三 実は三日前にトンカチ教の大いなる父が我が家に降臨なされて、

直人 あのム力つくから普通に言ってくれる？

幸三 ああ、三日前に山田さんがうちに来てな。

直人 ああ、それはそれで・・・うん。それで？

幸三 なんでも山田さんが言うには、父さんから巨大なトンカチパワーを感じてるんだ。

直人 トンカチパワー！郵便局員の父さんから、トンカチパワー！

幸三 父さん、前世は偉大なトンカチらしい。

直人 なんだ偉大なトンカチって！なんでちよっと誇らしそうなんだ！

幸三 ちよ・・・ちよっと！・・・あんまり見るな。

直人 何を照れてるんだ！何処を照れてるんだ！そもそもトンカチパワーって何だ！

幸三 父さんもよく判らないけど、世界を破滅から救う力らしい。

直人 荷が重いよ、トンカチごときに。

幸三 まあそう言ったわけで、父さんのトンカチパワーを更に高めるために、大いなる父の山田さんがいま、家にいるんだ。な？どう思う？

直人 追い出しなよ。

幸三 やっぱそうか。

直人 そりゃそうだろ。なに二回も家に入れてんだよ！

幸三 いや、二回じゃないよ。

直人 なに？毎日来るの？

幸三 いや、ずっといるんだよ。

直人 三日前から！？三日前からずっとウチにいるの！？

幸三 いる。だから言ったろう？父さんが入ったんじゃない。父さんが入られてるんだ。

直人 ・・・・。警察呼ぶよ。

携帯を出す直人。必死で止める幸三。

幸三 警察はダメだよ！警察は行き過ぎだよ！元・上司だぞ！

直人 知らない情報出て来た！え？元・上司なの？

幸三 三月まで郵便局にいたよ。

直人 郵便局ヤバいな！

幸三 郵便局はヤバいんだ！・・・そういった訳で、そうそう無下に追い出す訳にもいかないんだ。

直人 いや、でも元でしょ？もう関係くない？

扉が開き、山田が立っている。

山田 上島くん。

幸三 あ、はい。

山田 貝ひも、最後の一本だけど、上島くん食べる？

幸三 じゃあ、はい。

山田 御意。息子くん。

直人 はい・・・？

山田 お父さんを大切に下さい。いいね？

直人 はあ・・・はい・・・。

山田 うん。私もね、君の大いなる父だから。警察は無しだよ。

扉が閉まる。

直人 ・・・・警察呼ぼう。

幸三 だから警察はダメだって！大いなる父も言ってたろ？